

推薦のことば

2000年、日本での「ワールドカップトレーディングチャンピオンシップ」開催の可能性を検討するため、タイコム証券の代表者達が私の元を訪れた。このとき私の心のなかには、答えのない数多くの疑問がわいていた。

日本のスタッフたちは米国以外のマーケットで、このリアルマネーによる「チャンピオンシップ」をうまく再現できるだろうか？ コンペティションという競争方式のコンセプトを、日本の投資家やトレーダーたちは受け入れることができるだろうか？ われわれの「チャンピオンシップ」でも、長い年月をかけてようやく期待できるようになったトレードのレベルを、果たして日本の投資家たちが持っているだろうか？

そしてその答えはすべて「イエス」であることが証明された。とても喜ばしいことだ。2001年の後半に開催された第1回「ロビンスタイコム先物チャンピオンシップ」は、われわれの予想を上回るものだった。それに加えて、日本のトレーダーたちのパフォーマンスもとても驚くべき結果であった。この日本でのチャンピオンシップが開催されて以来、米国のトレーダーたちからも再三「彼らの秘密は何だ」と聞かれるくらいである。

彼らの「秘密」とは、ハードワークと才能だと私は思っている。優

勝したFairy氏の1098%という驚異的なリターンに対し、ほかにどのような説明がつけられるだろう？ 準優勝の炭谷道孝氏の665%にしても同様である。最初のチャンピオンシップで上位3名が300%以上の収益率を上げるとは…。このような快挙は、米国大会でも今だかつて達成されていない。また、忘れてはならないのが、この驚くべき結果が6カ月という期間でつくられたということである。早い話「彼らはスゴイ」のである。

しかもこの記録は、一回限りというわけではなさそうだ。Fairy氏は第2回大会でも709%というリターンを上げ、第1回大会の勝利がまぐれでないことを証明した。このような高い収益率を相次いで出すトレーダーは米国大会参加者にもいないのだ。

私は彼らに脱帽し、心から「Omedetou (オメデトウ)」と祝福したい。そして彼らの手法の秘密を明かす本が出版されるという。期待しているであろう多くのトレーダーともども私も楽しみにしている。

2002年11月

ジョエル・ロビンズ
ロビンストレーディングカンパニー代表

チャンピオンシップの成り立ち

スターの誕生

1987年、当時はまだ無名だったひとりの米国人トレーダーが、あるトレードコンテストに参加した。

1年間の運用期間ののち、彼は1万ドルの資金を114万7607ドル、つまり114倍に増やし、そのコンテストで優勝した。これをきっかけに世界的に名をはせるトレーダーとなった彼の名は、ラリー・ウィリアムズ。そしてラリーを輩出したこのコンテストこそ、米シカゴにあるロビンストレーディング社が主催する「ワールドカップトレーディングチャンピオンシップ」なのである。

このトレードコンテストがはじまったのは1984年。それ以来、先物業界では最も長い実績を持つこのリアルタイム・リアルマネーのコンペティションは、全米のトレーダーたちのプロへの登竜門的な存在として、確固たる地位を築いている。

この舞台で伝説を作ったのはラリー・ウィリアムズだけではない。

1989年、1990年、1992年の大会で優勝したマイク・ランドグレンはファンダメンタルズを唯一の材料とし、ライブ・キャトルだけをトレードするという異色の手法で、3度の栄冠に輝いた。

日系3世のカート・サカエダというトレーダーは、デイトレードを

中心に短期間のポジションを取るトレーダーが圧倒的に多いなか、シーズン（季節的）要因を利用し、5～10カ月という長期の時間枠でポジションを取って、2000年度優勝者となった。

また、こんな逸話もある。ラリー・ウィリアムズの娘であり、現在は女優として活躍しているミッシェル・ウィリアムズは1997年、ラリーが初めてこの大会に優勝してから10年経過した記念として参加した。ラリーに手法を教わりながらの参戦だったが、1万ドルを11万94ドルにし、なんと優勝してしまったのである。

そして、エリオット・ウエーブの理論家として有名なロバート・マイヤー、資金管理のプロとして活躍するライアン・ジョーンズなど、この大会から輩出され、世界的な認知度を得たトレーダーも少なくない。彼らのように過去に大会に入賞したよりすぐりのトレーダーたちは現在、「ワールドカップアドバイザー」というチャンピオンシップのサポートサイトで情報サービスを提供している。会員はホームページ上で彼らのアドバイスやリアルタイムの売買譜も見ることができのほか、毎日のマーケットレポート、ニュースレターや著書、ビデオの販売、トレーダー養成口座など、多岐にわたって活躍の場を広げている。「ワールドカップ」のルールはいたって単純である。その年の1月に始まり、12月末の終了時までには資金を何%増やしたか、その収益率を競うだけだ。最低1万5000ドル以上の資金でロビンズ社に口座を開けば、いつからでも、だれでも参加できる。しかし、このシンプルなルールゆえ、そして1年という運用期間ゆえ、トレーダーたちの真価が如実に現れるのである。

勝敗にこだわり、大きく儲けることばかりを考えていては、コンテ

スト終了時まで生き残ることはできない。さらにリスク管理を第一に考え、安定した収益を上げていかなければ上位に入ることはできないのである。だからこそ、ハイリスク・ハイリターンといわれる商品先物市場で勝ち残った者は、運用のプロとして通用する実力を備えているという証明にもなっているのだ。

2000年、日本を舞台に開催

そして2000年、数多の実力派トレーダーを輩出し、実績ある大会として確立したこのトレードコンテストが、日本市場を舞台に開催されることとなった。それが「ロビンズ・タイコム先物チャンピオンシップ」である。

日本国内においては、ようやくバーチャルトレード（仮想売買）での投資ゲームが定着してきた程度の状況下で、リアルタイム・リアルマネーでの競争は当然のことながら初の試みである。ルールは米国大会と同様の評価体系を用い、ロビンズ社のバックアップを得ての実現ではあったが、日本の個人トレーダーたちにこのリアル競争が受け入れられるかどうかは実際のところ未知数であり、事実、開催を危ぶむ声も少なからずあった。

また、ここ数年で劇的に投資環境は変化しているとはいえ、バーチャルトレードではなく実際に自分の資金でコンテストに参加し、成果を上げられる個人投資家が日本にどれだけいるのかということも、正直うかがいしれなかった。

日本にも驚異的な収益を上げる スーパートレーダーがいた！

だが、さまざまな懸念は、開始当初から杞憂に終わる。

第1回大会は2000年7月から半年間にわたって開催された。第1週目にトップに立ったハンドルネームFairy氏は、その後も順調に収益率を伸ばし続け、結果的に1度もトップの座を譲ることなく1098%という驚異のパフォーマンスを叩き出して優勝した。

そのFairy氏の後をぴたりと2位につけていたのが、炭谷道孝氏である。大会後半でのFairy氏とのデッドヒートは高い注目を集め、最終的に667%という収益率での準優勝となった（図参照）。

Fairy氏の1098%という収益率は、18年の歴史を誇る米国大会でも

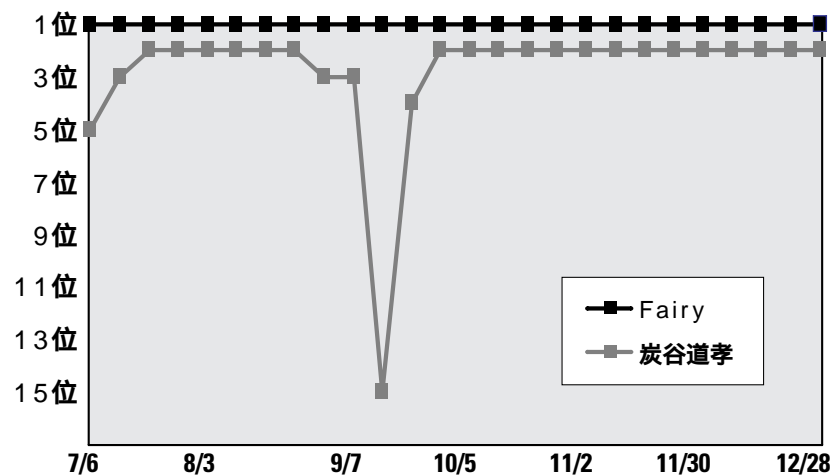
歴代3位をマークするもので、またそれに次ぐ炭谷氏の667%というように、同大会でこれだけの収益率を上位2名が達成した例は米国大会でも類をみないという。

またこの結果はロビンス社側と同様、米国大会に参加するトレーダーたちにも、日本の一般投資家のレベルの高さを証明することとなった。ロビンス社のホームページに掲載されている日本大会のランキングをみて、米国の投資家から「彼らに資金を預けたい」というリクエストもあったという。

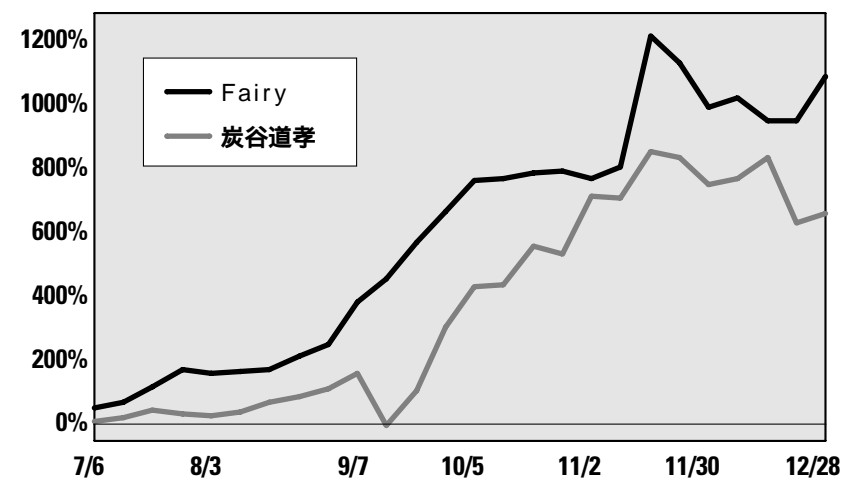
第1回大会で彗星のごとく現れたFairy氏と炭谷氏は、その表彰式で初めて直接顔を合わせる。その記念イベントのパネルトークに現れる2人を目当てに、会場は一般投資家達で溢れた。

一見淡々とした語り口のなかにも、その独特のトレードセンスが光

第1回大会順位推移 Fairy氏は一度もトップの座を譲らなかった



2人の収益推移 この収益曲線をみればこの2人がただものでないことがわかる



るFairy氏と、いったん口を開けば会場が笑いに包まれるユーモアあるキャラクターでありながら、10代からの相場経験で培った独自の相場哲学で持論を展開する炭谷氏は、非常に対照的な個性を持ち、そのトレード手法も異なるものであった。

その後、2人の好対照といえるキャラクターと、チャンピオンシップの高収益の秘訣である手法の一部を紹介するためのセミナーが東京と大阪で開催された。当日の会場は、満員御礼である。一般の投資家が講師となるセミナーでは異例の出来事ではないだろうか。そして、このときのセミナーのための原稿が、本書ができるきっかけとなったのである。

これから優れたトレーダーが生まれる

ラリー・ウィリアムズのサクセスストーリーは日本でもあまりに有名だが、日本の大会もチャンピオンシップ参加を機に活躍の場を広げる道筋をFairy氏と炭谷氏が第1回大会にして早々に創ってしまったといえるだろう。

彼らのほかにも、日本の個人投資家のなかに優れたトレードスキルを備えた実力者たちがまだまだ埋もれているはずだ。

米国と日本の制度の相違はあれど、その決定的な違いとは彼らの置かれている社会的立場だ。「資金運用」ということがようやく認知されてきた今日の日本にあっても、「投資家」や「トレーダー」であることを堂々と名乗れるだろうか。しかし、彼らはハイリスク・ハイリター

ンといわれる商品市場で、驚くべき成果を上げている真の意味での実力者なのである。

Fairy氏、炭谷氏をはじめとするチャンピオンシップ出身者がその礎を築き、一般投資家に光明が差す日が訪れることを心から願い、今後もそんなトレーダーたちが集う場として、この大会を開催していきたい。また、本書がその優れたトレーダーを生むきっかけになってくれるのなら担当者として、こんなにうれしいことはない。

最後に、本書の出版の機会を与えてくださった後藤康徳氏（パンローリング）、最後まで根気よく全体の構成や編集に携わっていただいた細田聖一氏（マイルストーンズ）には、心よりお礼を申し上げたい。

2002年10月30日

タイコム証券株式会社
「ロビンスータイコム先物チャンピオンシップ」担当
長野 文

contents

米国ロビンズワールドカップ トレーディングチャンピオンシップ 歴代優勝者の収益率

Robbins World Cup Championship of Futures Trading
Top Overall Performances - All Divisions

2001: David Cash	53%
2000: Kurt Sakaeda	595%
1999: Chuck Hughes	315%
1998: Jason Park	99%
1997: Michelle Williams	1,000%
1996: Reinhart Rentsch	95%
1995: Dennis Minogue	219%
1994: Frank Suler	85%
1993: Richard Hedreen	173%
1992: Mike Lundgren	212%
1991: Thomas Kobara	200%
1990: Mike Lundgren	244%
1989: Mike Lundgren	176%
1988: David Kline	148%
1987: Larry Williams	11,376%
1986: Henry Thayer	231%
1985: Ralph Casazzone	1,283%
1984: Ralph Casazzone	264%

推薦のことば	1
チャンピオンシップの成り立ち	3

Part1 “Fairy”の実践トレード日誌 フェアリー

はじめに	14
第1章 5分足を利用したスイングトレード	17
第2章 日足・30分足を利用したスイングトレード	57
第3章 変則的スプレッド・ストラドル	121
第4章 ドローダウンを避けチャンス待つ	161

Part2 相場の勝ち組に入れ 炭谷道孝

はじめに	184
第1章 相場で儲けるための心のあり方	188
第2章 とうきび日ばかり大作戦	196
第3章 3時から30分間石油攻略法	226
第4章 ロビンズ タイコム先物チャンピオンシップで使った手法	271
第5章 資金管理	277

Part3 チャンピオンシップ - 2人の売買譜

Fairy (フェアリー)の売買譜	290
炭谷道孝の売買譜	306

Part

Part



“ Fairy ”の**実践**トレード日誌

フェアリー(Fairy)

免責事項

この本で紹介してある方法や技術、指標が利益を生む、あるいは損失につながることはない、と仮定してはなりません。過去の結果は必ずしも将来の結果を示したものではありません。

また、この本の実例は、教育的な目的でのみ用いられるものであり、売買の注文を勧めるものではありません。本書に記載されている会社名、製品名は、一般的に各社の商標または登録商標です。

はじめに

数学の公式とは違い、マーケットは人間の心理や市場の内部要因、ファンダメンタルズなど、さまざまな要素を反映しています。したがって、1つの手法をそのまま利用しても、簡単に利益を上げることはできません。値動き、それを反映したチャートは各個人によって受け止め方が違い、さらに常にパターンは微妙に変化しています。

同じマーケットの同じ時間に参加した場合であっても、だれも私と全く同じ受け止め方はできないし、もし仮に同じように受け止めても、そこでどう対処していくか、そして判断も違うでしょう。さらに、そのときの資金量によるリスク管理や市場規模等によって、ポジションの大きさや対処法が違ってきます。また、トレードの時間枠、つまり日計りか、数日、または数カ月のポジショントレードなどの違い、利用するチャートの種類（TICK、5分足、30分足、日足など）によってもトレンドの判断が全く異なるため、売買に参入するタイミングや方向が違ってきます。

そして忘れてはならないのは、私の採った対処が必ずしも正しいというわけではなく、正解が1つではないことです。要は自分なりの運用方法をトレーダーそれぞれが自分でつかみ、結果として利益を上げることができればよいのです。

私がトレードをするにあたって採用している手法は、すでに知られているようなパターンを、現実の生きたマーケットに自分の主観的判断で当てはめて利用したか、若干の改良を加えて利用したものが大半です。しかし結果的に、大きく収益を上げることができたことも、また事実です。ただし、大きなトレンドを取ることができて収益を上げられたとか、勝率が良かったというよりは、「細かな利益を積み重ねられた」というのが大半でした。

なお「ロビンズータイコム先物チャンピオンシップ」でのトレードが、普段私が利用している運用方法と異なっている部分は半年間出金しないという点で、それが今回収益率を上げることに貢献しました。要するに、普段はリスク管理の観点から、ある程度利益が生じたら出金して同じ元本からスタートすることを基本にしているため、チャンピオンシップのような高率の運用にはなっていない、ということがあります。

ガソリン、灯油のマーケットを主なトレード対象として選んだのは、ザラ場取引で市場規模、つまり出来高と取組高が他銘柄に比較して大きく、流動性やボラリティがあったので、スイングトレードを主体とした取引手法が使いやすかったことです。したがって、このマーケット固有の事情以外の部分については、ほかのマーケットでの利用も可能だと思います。

今回、第1回の先物チャンピオンシップで実績を上げることができ、本書を執筆する機会を得ました。本書には私の実際のトレードを、日誌形式で書いていきます。このチャンピオンシップでの半年間、私が

どのようにマーケットを受け止めてどう対処したか、マーケットの変化にどう対処してトレードしたかを説明することにより、読者がトレードするうえでの参考になれば幸いです。

章の構成として、4つに分けて記載していますが、期間ごとに手法を変えたというのではなく、基本的には全期間にわたり、すべての手法を利用することを念頭においてトレードを行っていました。つまり、それぞれのテーマを説明する都合上、4つ分けただけです。

チャンピオンシップにおけるトレードのスタート口座資金は、50万円でした。

フェアリー (Fairy)

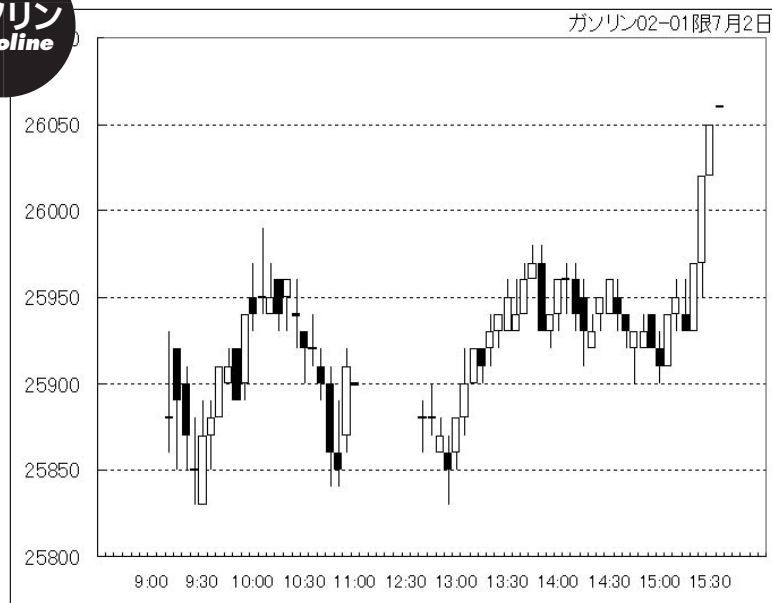
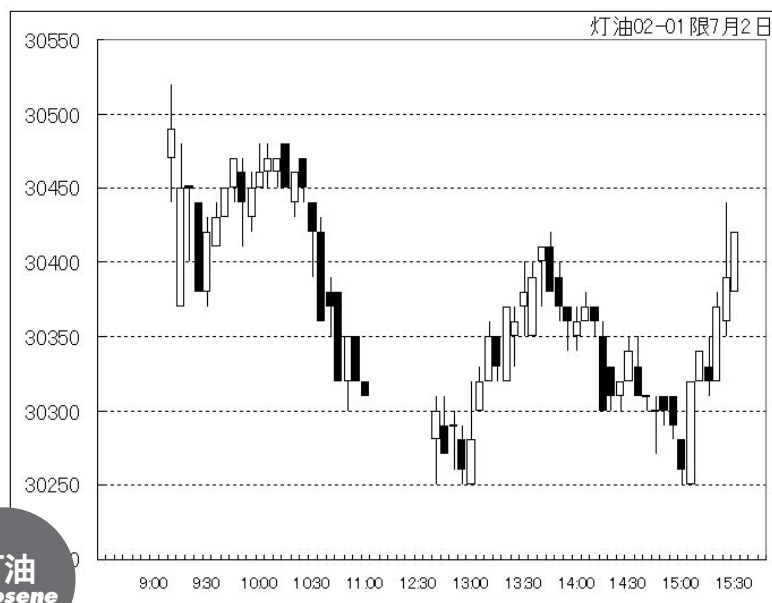
第1章 5分足を利用したスイングトレード 〔第1週から第4週〕

最初のころのトレードは、取引対象としたマーケット（ガソリン、灯油）の証拠金やボラリティに比較して口座のスタート資金が小さいので、1～2枚の日計り中心の運用を基本にしました。元金を減らして、運用停止を余儀なくされることがないように、安全を考慮し、リスクの少ない方法を採用する必要があったからです。

一般的に資金をすべて失うことがないようにするためには、最大限のリスクが総資金の1、2%といわれています。そうすると50万円が総資金であれば、1回のリスクは1万円が限度になります。

ザラ場で日計りの取引をする場合には、そのような小さなリスクでマーケットに参入できますが、オーバーナイトのポジションを取る場合は、ガソリン灯油のストップ幅である700円（張り付きで注文が通らない場合を除く）、つまり14%までのリスクがあるので、大き過ぎるわけです。

ただし、日計りで参入して大引けまでに利が乗るか、実現益が生じた場合には、オーバーナイトのポジションを取ってもよいことになります。

ガソリン
gasoline灯油
kerosene

第1週 2001年7月2日(月曜日)

①外電(NYMEX WTIの価格のこと)高の影響で200円ほど高く始まったこと、②日足チャートを見ると先週末2日間陽線で上昇してきたこと、③先月の始めに天井を打ってから中旬まで急落しそれ以降をボックス相場と考えると上値近くにきていること、を理由として、寄り付き近辺でガソリン2月(先限)を2枚売りました。

損切りライン(26000円)を超えて上昇することはありませんでしたが、下がる様子もなかったため、午後から若干の損切りでいったん手仕舞いしました。

取引終了前30分ごろ(3時ごろ)になって、5分足の下降トレンドの上方抵抗ラインを上方ブレイクしたところで2枚買い、そのまま上昇して若干利が乗りましたが、オーバーナイトのリスクは避けるため、大引け(取引の終了時)に全部手仕舞いしました。

今日のトータルは、+約1万円でした。

今日の売買ポイント

日付	時間	銘柄	仕掛け				手仕舞い				差損益		
			限月	売買	枚数	約定値	日付	時間	約定値	値幅	売買差金	手数料	帳尻
07.02	9:08	東京ガソリン	01.12	売	1	26,270	07.02	14:33	26,270	0	0	525	-525
07.02	9:18	東京ガソリン	02.01	売	1	25,890	07.02	13:41	25,960	70	-7,000	525	-7,525
07.02	14:53	東京ガソリン	02.01	買	2	25,940	07.02	15:31	26,050	110	22,000	1,050	20,950

ガソリン
gasoline

2001年7月3日(火曜日)

①外電安の影響で200円安く始まり、②昨日安値を下方ブレイクしていないことから、灯油1枚、ガソリン1枚を寄り付き近辺で買いました。損切りラインは、昨日の安値を下方ブレイクしたところに設定。

すぐに上昇したので、灯油を2枚新規買増し。建て玉枚数が増えたので、損切りラインは最初の建て玉と合わせて0を下回らないように注意します。昼前に昨日の終値近くまで上昇したので、ガソリン、灯油各1枚を仕切って約2万円のプラス。同時に灯油の買いをそのままにしてガソリン2枚を新規に売り、異銘柄の両建てにして様子を見ることにしました。

大引けは、ガソリンは昼から値段変わらず、灯油は300円ほど上がっていたので、ガソリン、灯油各1枚ずつ仕切り、約3万円のプラス。翌日に持ち越したのは、灯油買い1枚、ガソリン売り1枚、含み益約3万円です。今日のトータルは+約5万円。口座残高約56万円。

今日の売買ポイント

仕掛け						手仕舞い			差損益				
日付	時間	銘柄	限月	売買	枚数	約定値	日付	時間	約定値	値幅	売買差金	手数料	帳尻
07.03	9:10	東京ガソリン	02.01	買	1	25,860	07.03	10:25	25,990	130	13,000	525	12,475
07.03	9:10	東京灯油	02.01	買	1	30,220	07.03	10:31	30,370	150	15,000	525	14,475
07.03	9:22	東京灯油	02.01	買	1	30,310	07.03	15:31	30,310	340	34,000	525	33,475
07.03	9:22	東京灯油	02.01	買	1	30,310	ポジション持ち越し						
07.03	10:28	東京ガソリン	02.01	売	1	25,980	07.03	15:32	26,000	-20	-2,000	525	-2,525
07.03	10:38	東京ガソリン	01.12	売	1	26,290	ポジション持ち越し						

灯油
kerosene

ガソリン
gasoline

2001年7月4日(水曜日)

今日は外電高の影響で高く始まりましたが、昨日、一昨日の高値を上方ブレイクして寄り付いたので、昨日から持ち越したガソリンの売り1枚を寄り付きで損切り手仕舞いしました。マイナス約3万円。同時に灯油2枚を買い増し。

その後、上昇が止まったので、ガソリン2枚売り直し。昼過ぎに灯油3枚を順次仕切って、プラス約11万円、うち昨日の含み益が約3万円でした。

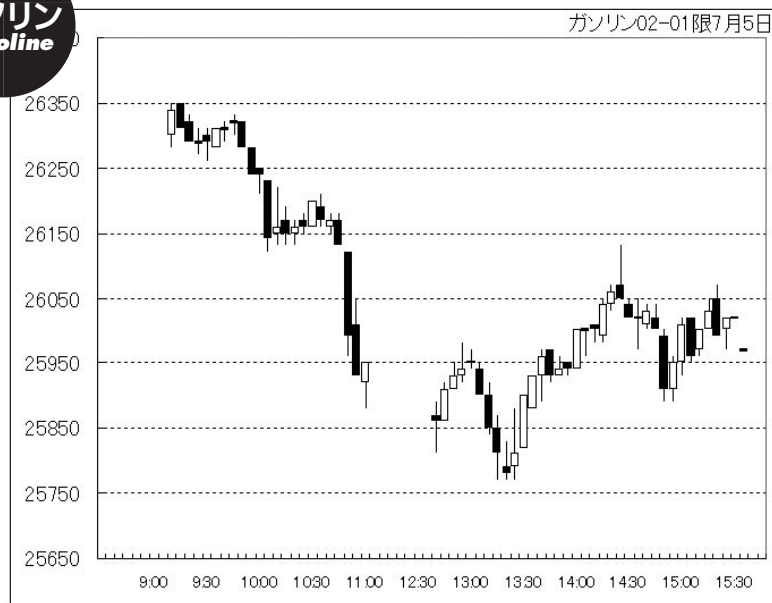
大引けでガソリン売り2枚を値段変わらずで、手仕舞いました。

今日のトータルは+約8万円。口座残高約64万円です。

灯油
kerosene

今日の売買ポイント

仕掛け						手仕舞い			差損益				
日付	時間	銘柄	限月	売買	枚数	約定値	日付	時間	約定値	値幅	売買差金	手数料	帳尻
07.04	9:10	東京灯油	02.01	買	2	30,720	07.04	13:33	30,990	270	54,000	1,050	52,950
07.03	10:38	東京ガソリン	01.12	売	1	26,290	07.04	9:23	26,500	210	-21,000	1,050	-22,050
07.03	9:22	東京灯油	02.01	買	1	30,310	07.04	13:19	30,960	650	65,000	1,050	63,950
07.04	10:48	東京ガソリン	01.12	売	2	26,500	07.04	14:10	26,580	80	-16,000	1,050	-17,050

ガソリン
gasoline

2001年7月5日(木曜日)

外電高の影響で、小幅高で寄り付く。ガソリンは昨日の高値を上方ブレイクして寄り付かなかったので、売りのタイミングを狙いました。一方、灯油はブレイクしていたので、今日も昨日のように一度上がるかと思い、灯油を寄り付きで4枚買いました。

しかし最初から4枚建てたのは、資金量から考えてもリスクの取り過ぎです。7月3日のように最初2枚建て、利が乗ったら2枚買い増しするのが正解でした。やはり見込み違いで、10時ごろから急落したので急いで手仕舞ったのですが、約7万円のマイナスになりました。

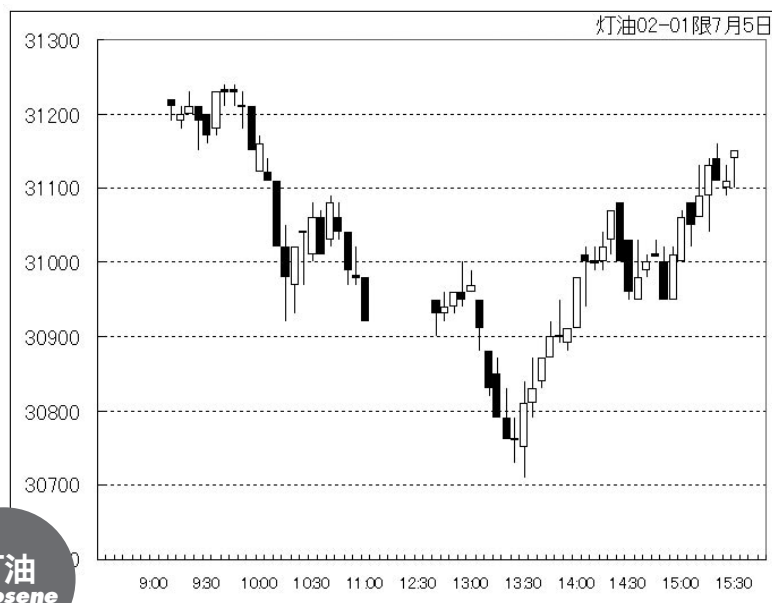
①今日の始値26300円、②今日の始値から10時までの安値26240円を下方ブレイクしたので、ガソリンを3枚新規に売り(ここも2枚でよかった。結果が良かっただけで、リスクの取り過ぎ)ました。

そのまま下がって利が乗り、10時半過ぎに反発が弱いを見て、さらに2枚ガソリン売りを追加しました。ここでは、損切りラインが、最初の建て玉と合わせて0を下回らないように注意しました。

昼ごろには、ガソリンがさらに急落したので、下げ渋ったところで①灯油のマイナス分の埋め合わせをしたかったことと、②建て玉枚数が多くなり過ぎて反発したときの危険が大きいことを考慮し、あとから追加した2枚を買い戻し、約6万円のプラス。

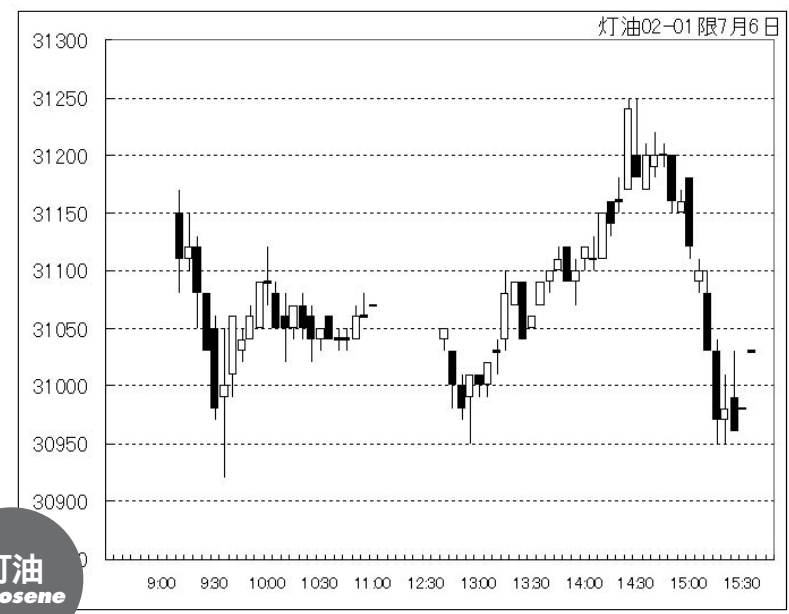
大引けで2枚買い戻して、約4万円のプラス。今日のトータルは、プラス約3万円でした。残り1枚は、2万程度の含み益があったので、翌日に持ち越しました。

今日のトータルは+約3万円。口座残高約67万円。

灯油
kerosene

今日の売買ポイント

仕掛け				手仕舞い				差損益					
日付	時間	銘柄	限月	売買	枚数	約定値	日付	時間	約定値	値幅	売買差金	手数料	帳尻
07.05	9:08	東京灯油	01.12	買	2	31,170	07.05	10:09	30,920	250	-50,000	1,050	-51,050
07.05	9:11	東京灯油	02.01	買	2	31,200	07.05	10:05	31,110	90	-18,000	1,050	-19,050
07.05	10:02	東京ガソリン	02.01	売	2	26,210	07.05	15:33	25,970	240	48,000	1,050	46,950
07.05	10:06	東京ガソリン	02.01	売	1	26,200	ポジション持ち越し						
07.05	10:37	東京ガソリン	01.12	売	2	26,470	07.05	13:27	26,160	310	62,000	1,050	60,950
07.05	13:57	東京ガソリン	01.12	売	2	26,240	07.05	15:32	26,270	30	-6,000	1,050	-7,050



2001年7月6日(金曜日)

外電が約1ドルの大幅高で、しかも為替が昨日に比べて円安になったにもかかわらず、昨日と同じくらいの値段で寄り付いたことで(強い材料に反応しない場合は弱い)、昨日の流れが変わっていないと判断。持ち越した1枚に加え、2枚ガソリン売りを追加しました。

予測通り急落しましたが、200円ほどの下げで昼ごろまで下げ渋ったため、今日売った2枚と昨日からの持ち越した1枚も手仕舞いしました。8万円プラスです。まだ下がりそうな雰囲気でしたが、このあとマーケットを見ることができない用事があり、今週はここで終わりにしました。あとで今日の動きの結果を見ると、その後予測通り3時ごろから400円ほど急落していたので、ストップロスを決めて1枚は残したほうがよかったかもしれません。

今日のトータルは+約8万円。口座残高は約75万円で今週を終えました。

第1週の感想

今週の上位順位が月曜日にはわかるので、ライバルとの比較ができる。今週は、木、金と結構取り損なっているので、来週はその辺を反省してやりたい。多少失敗しても、すぐ気を取り直して、次の手を考えることが重要だと思う。

しかし、ガソリン、灯油の短期売買としてはかなりうまくいったほうで、これ以上収益を上げることは私の手法では難しい。いったいどの程度の順位なのかが興味深いところだ。

今日の売買ポイント

仕掛け						手仕舞い				差損益			
日付	時間	銘柄	限月	売買	枚数	約定値	日付	時間	約定値	値幅	売買差金	手数料	帳尻
07.06	9:18	東京ガソリン	01.12	売	2	26,240	07.06	12:58	26,000	240	48,000	1,050	46,950
07.05	10:06	東京ガソリン	02.01	売	1	26,200	07.06	13:00	25,720	480	48,000	1,050	46,950